

# 製本のススメ

Vol. 170

梅雨明けの途端 猛暑の日々ですね。地球の温暖化についてもっと個人レベルから見直さないといけない時期に来てしまった感があります。自然と共存するには、多少の不便も楽しめるようにならないといけませんね。このあたりの感覚が「働き方改革」のヒントにもなるのではないのでしょうか。

今回は**逆目**の話し

紙目については何度かテーマにしていますが、それでもなお 頑なに逆目使いの印刷物で持ち込まれる事も。冊子の場合 基本的に紙目は「冊子の天地方向に流れている」わけですので それを逸脱する場合には それなりの覚悟と技術が必要です。意図的に逸脱するのでない限りその印刷物は失敗といえます。

さて合紙の世界ではこの紙目の特徴を逆手に取り あえて逆目使いをします。同じ銘柄で同じ斤量の場合等は、縦目と横目を張り合わせて用紙の反りを軽減させる場合があります。また紙が薄い場合には、あえて逆目使いで製本することもあります。また卓上カレンダーやカレンダーの台紙等は、逆目使いが多く特に台紙については 紙目の特徴をよく理解して印刷すると収まりの良い製品ができます。もっとも縦型・横型とカレンダーのサイズも様々ですので、実際の形によって、その取り都合も変わります。

さてこの紙目ですが用紙の種類や厚みによっては多少の融通が利きます。上製本の表紙貼りは良い例で 表紙を付けた際に太鼓型になるように わざと見返し用紙を厚くしたり 糊の水分量を調節して芯になっているボール紙と表紙用紙とを 内側へカールするように作ります (薄い用紙は見返しに不向きという理由の一つです) 表紙用布クロスの場合には 縦目取り・横目取りと柄都合でやむを得ない場合がありますので 芯ボールと見返し用紙で強引にカールさせていくのです。むろん所詮は紙ですから1年もきちんと養生されて保管されていれば、紙目も落ち着きますが、納品時での不具合は否めません。十分に注意してください。



## Tea break

まだまだ暑いですね。外出に帽子は不可欠！帽子といえばローマ法王が頭にかぶっているあの平たい帽子 あれは「ミトラ(司教帽)」と呼ぶそうです。司教以上は ミトラを被るそうですが、白いミトラは法王のみだそうです。またミサの時に被る縦長の大きな帽子もミトラと言います。ちなみに「ミトラ持ち」という役目もあるそうで 神聖な帽子なのですね

弊社 HP は [www.isekiseihon.com](http://www.isekiseihon.com)

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本

instagram は「Atelier703」